

第55回日本皮膚免疫アレルギー学会 学術大会を開催して

(2025年11月28～30日, 京王プラザホテル)

佐伯 秀久

日本医科大学大学院皮膚粘膜病態学教授

はじめに

2025年11月28～30日の3日間, 東京都新宿区の京王プラザホテルで, 第55回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会を開催いたしました。日本医科大学では, 本学術大会の前身として1990年に本田光芳名誉教授が第20回抗原研究会を, 2010年に川名誠司名誉教授が第33回皮膚脈管膠原病研究会を開催

されました。今回15年ぶりに本学術大会を開催させていただいたことはたいへん光栄なことであり, 心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症も落ち着いたので, 本学術大会は完全現地開催にいたしました。

テーマ

皮膚免疫アレルギー学はとても奥行きの高い学問分野と考えております。扱う疾患もアトピー性皮膚炎, 蕁麻疹, 接触皮膚炎, 薬疹, 膠原病, 血管炎, 水疱症, 乾癬, 脱毛症, 食物アレルギーなど, 非常に幅広いのが特徴です。本学術大会の歴史を振り返っても, 抗原研究会, 皮膚脈管膠原病研究会などを前身とし, 日本皮膚アレルギー学会, 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会などを経て, 日本皮膚免疫アレルギー学会に至った経緯があり, 扱う領域の幅広さを物語っております。また, アレルギー学は内科, 小児科, 耳鼻咽喉科, 眼科, 基礎医学などの他領域と重複するテーマも多く, 学際的なアプローチが必要な領域でもあります。招待講演では, その点も加味してご講演をお願いいたしました。

皮膚という臓器を通して, 免疫アレルギー学を幅広く, 奥深く学びたいとの願いを込めて, 本学術大会のテーマを「皮膚から免疫アレルギーの深淵に迫る」といたしました(図1)。

プログラム

特別講演では, University of California Davisの



図1 プログラム・抄録集表紙



図2 特別講演演者のSam Hwang先生(写真右)と記念撮影

Dermatologyの教授であるSam Hwang先生(図2)に「The story of CCL20 locked dimer: blocking a chemokine receptor as a therapeutic strategy for psoriasis and other inflammatory diseases」というタイトルでご講演いただきました。彼のライフワークともいえるケモカインの主に乾癬における役割に関して、治療戦略も含めてお話しいただきました。

招待講演1では、東京大学医学部免疫学教授の高柳 広先生に「関節炎の病態と治療～骨免疫学からストローマ免疫学へ～」をテーマにご講演いただきました。ストローマ細胞が免疫機能の制御に重要であることがよく理解できました。

招待講演2では、東京慈恵会医科大学遺伝学教授の玉利真由美先生に「アレルギー・好酸球関連疾患のオミクス研究」と題し、アトピー性皮膚炎におけるオミクス解析を用いた病態解明研究の最新の知見などを概説していただきました。

招待講演3では、日本医科大学先端医学研究所細胞生物学教授の岩井佳子先生に「免疫チェックポイント阻害薬の開発とその効果予測」について、2018年にノーベル生理学・医学賞を受賞された本庶 佑

先生の研究室で、実際にニボルマブの開発に携わった経験を踏まえて解説いただきました。

招待講演4では、国立成育医療研究センター免疫アレルギー・感染研究部アレルギー研究室室長の森田英明先生に「免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の今」についてご講演いただきました。2019年に策定された免疫アレルギー疾患研究10か年戦略の推進と実装の現在地、今後の展望について解説いただきました。

おわりに

約850名の先生方にお集まりいただき、盛会のうちに学術大会を終えることができました。この場を借りて参加いただいた先生方に深謝いたします。